

## 理工学研究科（工学系）アセスメントプラン

### 1 アセスメントの目的

学生や社会の状況を捉え、データに基づくカリキュラムおよび個々の授業、そして学習支援の改善を継続的に行うことを目的として、学修成果のアセスメントを行う。アセスメントにあたっては、直接評価と間接評価の双方を取り入れる。前者については成績や学籍異動の状況に関するデータを収集し、後者については全学生に対して毎年実施するアンケートを中心にデータを収集する。アンケートについては縦断的な調査を行うことにより、総体としての学生の状況だけでなく個々の学生における能力や学習状況の変化を追跡する。これにより、個々の学生に対する学習支援の改善を行う。さらに、成績評価の結果や学籍異動の状況に関するデータと併せて分析することで、休学・中退や成績不振の予測などへの活用を図る。

### 2 達成すべき質的水準

達成すべき質的水準は、理工学研究科のディプロマ・ポリシーにおいて定めている。ディプロマ・ポリシーにおいては、社会と地球環境を見据えつつ、科学・科学技術を継承し発展させることができ、地域社会と国際社会で必要とされる高度専門職業人、技術者、研究者を育成することを目指している。修士論文については、リサーチ・ループリックにおいて研究の位置づけと目的の明確さ、独自性、科学的検討のレベル、プレゼンテーション能力などの評価項目を評価し、一定以上のレベルに到達したものを合格としている。

### 3 アセスメントの方法

No.	名称	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	手法	実施責任部署	結果の活用方法
1	修了予定者アンケート	毎年1-3月	M2	DP達成状況、愛大学生コンピテンシーの習得状況	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、研究科のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
2	授業アンケート	毎年2回	M1, M2	学習の状況、授業の理解度、授業の満足度など	紙媒体・またはWebアンケート	各コース	結果をまとめて、授業担当者にフィードバックし、授業方法やカリキュラム改善、自己点検・評価に活用
3	学生代表者との意見交換	毎年1回	M, D	学習環境の改善及びキャンパスライフの向上に関する事項など	意見交換	工学部学生支援委員会	理工学研究科（工学系）における教育の点検・改善、学生支援活動の充実、第三者評価の資料として活用
4	修了生アンケート	毎年1回	修了3年後の社会人	現在の仕事内容、在学中に身に付いた能力、大学院で提供してほしい科目など	Webアンケート	教育・学生支援機構	理工学研究科（工学系）における教育の点検・改善、学生支援活動の充実、第三者評価の資料として活用
5	就職先企業等へのアンケート	3年に1回程度の予定	修了生の就職先	修了生に求める能力、理工学研究科のDPが身に付いているかどうか、大学院教育に求めるものなど	紙媒体・またはWebアンケート	理工学研究科（工学系）	大学院研究科における教育の点検・改善、学生支援活動の充実、第三者評価の資料として活用
6	修士論文発表会	毎年2月	M2	研究内容のプレゼンテーションと質疑応答	発表会形式	各コース	リサーチ・ルーブリックを用いて、数項目で審査・評価し、修士論文の可否を決定する
7	教員学生懇談会	毎年2回	M1, M2 (各学年8名程度)	前期、後期中に受講中の講義についての要望、感想について、教員が聞き取り調査	インタビュー調査	機械工学コース	結果をまとめて、授業担当者にフィードバックし、授業の自己点検と改善に活用

8	シラバス点検	毎年1回 (2月頃)	教務委員会	キーワード、到達目標とDPの関係、授業スケジュール、授業時間外学習に関わる情報、成績評価方法などについて点検する	シラバスの原稿	工学部教務委員会・授業担当教員	教務委員会でシラバスの原稿を点検し、記載に不備がある場合、授業担当教員に加筆・訂正を求めることで教育の自己点検と教育改善に活用
9	成績分布状況調査	毎年2回 (11月頃と3月頃)	教務委員会	各学期に開講された授業科目の成績分布一覧を確認する	科目別成績分布一覧表	工学部教務委員会	教務委員会で科目別成績分布一覧表を確認し、適正に成績評価がなされているかどうか点検することにより、教育の自己点検と教育改善に活用